



洋上アルプス

No.315

2021年6月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333

第6回小杉谷閉山50周年記念祭実行委員会

(4月13日)

本年 10 月に開催予定の「小杉谷閉山 50 周年記念祭」の第 6 回実行委員会が屋久島森林管理署において行われました。今回の会議は、4 月の人事異動により新たな委員構成での開催となり、前回現地検討会での意見を踏まえ、グラウンドの条件整備、会場周辺の歩道整備、会場設営等について確認しました。また、トイレの設営や記念品、来賓、招待者の範囲等限られた予算の中で効果的な式典となるよう、幅広い意見が出されました。



屋久島森林管理署会議室にて

今後とも検討会を重ね、記念祭の成功に向けて取り組むこととし閉会しました。

令和3年度有害鳥獣捕獲従事者研修会を開催

(4月21日)

屋久島森林管理署と当保全センターでは、ヤクシカによる森林生態系や農林業への被害を抑えるために、屋久島町や地元猟友会など関係機関と連携して、シカ被害対策に取り組んでいます。

令和 2 年度は屋久島町全体で 1,518 頭の捕獲が報告されています。年々ヤクシカの被害は減少傾向となっていますが、果樹や野菜、希少種への被害が報告されています。



座学による法令等の研修

このような中、本年 4 月の転入者及び免許更新が必要な職員 6 名に対して、午前に屋久島署



くくり罠の設置方法についての説明

会議室で法令等座学研修を受講し、午後には捕獲技術の向上を目的にくくり罠の実技訓練を実施しました。

実技訓練では、全員が罠を設置し、設置のコツや安全な取り扱い方法の指導を受けました。また、長距離無線式捕獲パトロールシステム（通称：ほかパト）の使用方法についても説明を受けました。ほかパトはシカが罠にかかった際、無線を通じてパソコン上に知らせるもので、本研修では罠とほかパトをそれぞれ設置し罠捕獲の一連の流れについて学習しました。

令和3年度 屋久島世界自然遺産地域等のモニタリング調査概要

屋久島森林生態系保全センター及び九州森林管理局で実施する令和3年度のモニタリング調査の概要についてお知らせします。

◎目的

世界自然遺産に登録された屋久島の森林生態系を適切に把握し維持していくため、科学的なデータに基づいた順応的管理を行っていく必要があります。

平成11年度から行っている垂直方向の植生モニタリング調査を引き続き実施するほか、各種モニタリング調査を行い、学識経験者等の意見を聴きながら遺産地域の保護・保全に資するものです。



愛子橋から眺めた愛子岳の山頂と
東部稜線の照葉樹林

◎業務概要

1. 屋久島東部地域の垂直方向の植生モニタリング調査

東部地域の垂直方向の植生モニタリングを行い調査結果をとりまとめ、今回と過去4回（平成13、18、23、28年度）との比較・分析し、予測します。

2. 高層湿原の植生状況モニタリング調査及び保全対策の検討

- ・小花之江河に設定した調査プロットにおいて、植生保護柵内外のモニタリング調査を実施し動向予測を行い評価します。
- ・水の収支、地下水位、水温モニタリング調査、湿原地形調査及び試行的保全対策箇所出土砂、枝条等の堆積状況をモニタリングし評価します。
- ・高層湿原保全対策検討会を開催します。

3. 森林生態系における気象変動の影響のモニタリング調査

各機関のモニタリングデータの収集、気象庁アメダスによる気候変動のデータの収集・分析等を行い、動態予測及び脆弱性の評価をします。

登山者へのマナー等呼びかける「シャクナゲパトロール」を計画

ヤクシマシャクナゲの開花時期を迎え、屋久島森林生態系保全センターでは、例年、登山者が多くなる時期に合わせ、屋久島森林管理署と協力し「シャクナゲパトロール」を計画しています。

本年は、5月24日（月）～6月4日（金）の間で計画し、高山植物の盗掘防止や登山マナーの呼びかけを行うこととしています。

登山される方におかれましては①ゴミは捨てずに持ち帰ること②登山道から外れないこと③動植物の捕獲、採取は行わないこと④トイレは決まった場所で、また必要に応じて携帯トイレを使用することなど、ルールを守った登山をお願いします。



宮之浦岳のシャクナゲ

屋久島登山の魅力について（第3回）

—— 屋久島の沢について ——

古賀 顕司（屋久島山岳ガイド連盟 代表）

今回は屋久島の沢の魅力についてお伝えします。

屋久島は雨のイメージがあると思います。実際に雨の日は多く麓で170日くらい雨の日があり、標高が高い場所では年間降水量が1万ミリを超える場所もあります。雨が多いこともあり屋久島には河川が多くあります。細かく分けると140ほど存在しています。屋久島は大小様々な川があり、多種多様な地形が生まれ世界に誇れる価値があります。そんな魅力のある川を登っていく沢登りは登山のひとつの形式です。

沢とは短い川、細い川の通称ですが、沢の中に入っていくと特徴的な地形があります。沢独特の用語があって、例えば「ゴルジュ」とは兩岸が狭く垂直に近い岩壁がせまっている地形。「ゴーロ」は石がごろごろしているところ。そして個人的に好きな地形が「ナメ」で、流水が穏やかに岩の上を流れているところです。軟弱な考えですが険しいところよりも、そのあとに現れる「ナメ」に心が奪われます。ナメはコケが育っているところも多いので、できればステルスソールではなく、フェルトタイプの沢靴の方がコケも傷つかなくて良いと思います。



穏やかなナメ沢

屋久島のナメが出てくる沢で、個人的に好きな沢がいくつかあります。まずひとつ目が「ビヤクシン沢」、石塚小屋付近を源流にヤクスギランドまで流れて、荒川に合流する沢です。時間に余裕がある場合は、ヤクスギランドの苔の橋から入渓、時間を短縮したい場合は花之江河歩道の大和杉先の渡渉点から入渓します。全体を通して穏やかで、コケの風景が美しい沢。とくに難しいところはないけれど、歩く距離が長いです。沢の最後には、天国への階段と名付けたいナメの段があり、そこを登るとぱっと空が開け、最後までナメが続くナメ好きにはたまらない沢です。

ふたつ目が「花之江河沢」、アプローチに悩む沢です。小楊枝川の支流なので小楊枝川を登れば良いのですが、かなりレベルの高いルートのため、花之江河沢のみを楽しむには、栗生歩道途中から沢に降りるか、または黒味岳付近から下降するほうが安全策だと思います。どちらにしてもルートファインディングが難しいです。小楊枝川から花之江河沢に入ると、数か所で登るのが難しい10m以上の滝がいくつか出てきます。滝の横に避けて登ったりしていくと、突然ナメが現れます。この沢が面白いのがナメの上に巨岩があること。苔のナメと巨岩の組み合わせはずっと見ていたい風景です。



ナメに巨岩の風景

屋久島の沢は美しいのですが、滝などの地形が厳しく、さらに天候判断も難しく、山の総合的な力をもっている人しか入ってはいけない領域です。もしも沢登りをされる場合は十分注意してください。（おわり）

屋久島生態系モニタリング



屋久島西部地域の垂直方向植生モニタリング（令和元年度）

●標高200mプロット（戦前は薪炭利用されていた林分と考えられる照葉樹二次林）

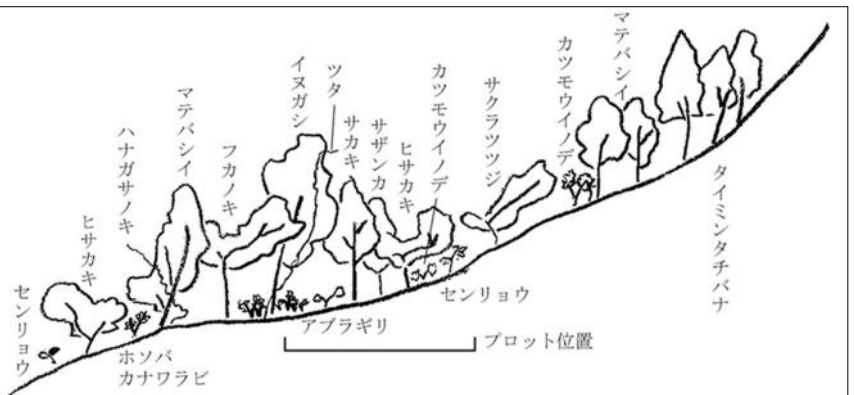
[植生概況] 高木層はマテバシイが優占するが、亜高木層には3本しかなく、低木層には確認されていない。ツタ等のつる植物の旺盛な生育が目立つ。アブラギリの実生が散見された。

[優占種の変化]	階層区分	平成16年度	平成21年度	平成26年度	令和1年度
	高木層 (8.0m～15.0m)	マテバシイ	マテバシイ	マテバシイ	マテバシイ
	亜高木層 (4.0m～8.0m)	サカキ	サカキ	サカキ	サカキ
	低木層 (1.0m～4.0m)	ヒサカキ	ヒサカキ	ヒサカキ	サザンカ
	草本層 (1.0m未満)	ホソバカナワラビ	ホソバカナワラビ	ホソバカナワラビ	ホソバカナワラビ

[階層毎の木本数] 低木層は平成16年度から徐々に減少し続けている。野生鳥獣の多く見られる地域であり、堅果類や、草本層の木本植物の多くが低木層に到達する前に採食されている可能性が高い。低木の代わりに不嗜好性のつる植物が繁茂している。採食や角研ぎに遭わなかった低木・亜高木の一部がそれぞれ亜高木・高木層に到達していた。



標高200mプロット森林概況



標高200mプロットの群落横断面図



自然休養林情報

ヤクスギランド・白谷雲水峡の危険木点検と処理について

屋久島レクリエーションの森保護管理協議会（以下レク森協議会）では、台風等により多くの倒木が発生した場合、林業技術者と一緒に白谷雲水峡やヤクスギランド園内の点検を行い、枯木やかかり木の状態を危険と判断した場合は林業技術者による処理を行っています。

この危険木処理にかかる費用は、通常は接近した台風の数に左右されますが毎年 50 万円～100 万円程を要します。

令和2年度は、接近した台風が少なかったこともあり、処理した本数は7本、撤去費用は165,000円でした。（平成27年度～令和元年度の5年間の処理した本数84本（年平均16.8本）、同費用4,222,872円（年平均844,574円））

本年度は、昨年6月に発見（発生）以降、観察していたヤクスギランド沢津橋塔柱にもたれたかかり木の処理を4月23日に行いました（写真）。

また、白谷雲水峡においては、昨冬の降雪で倒木後に景観を損ねている箇所倒木、枯木・かかり木等の点検を4月30日に行いました。その結果31本（大径木5本、中径木17本、小径木9本）の危険木等の処理と4箇所の景観保持倒木処理作業を5月下旬から6月にかけて行うこととなりました。

来園される皆様のご協力をお願いいたします。



ヤクスギランド沢津橋塔柱のかかり木
（左:処理前 右:処理後）

